

# かけがわの森から

掛川市森林組合通信



2020年春号 Vol.51



## 人と森林の間を、 EIMTBがつなく。

話題の電動アシスト付き  
マウンテンバイク・EIMTBを使って、  
FSC森林認証の普及啓発活動のため、  
11名の識者を、早春の掛川の森へご案内しました。  
美しい森林や林道、  
私たちの施業現場をガイドするツアーです。  
400mもの標高差や荒れ気味の未舗装路も、  
電動アシストによる驚異的な機動力で  
森林の魅力と林業の実際を、  
上手に伝えることができました。

## リニア新幹線について 考える



榎村航一 組合長の  
元気もりもり(森・森)通信 19

先日、リニア地下トンネルを掘る直径約14メートルの国内最大級掘削機「シールドマシン」が公開されました。約100万年を経て形成され、今なお隆起し続ける南アルプスの地層が貫通すると考えると、悲しい気持ちになります。リニア建設計画で静岡県が悪者のように扱われることに、森を守る立場の私は世に詫言いたる思いです。

この工事は、大井川流量減少問題のみならず、南アルプスにおける生物多様性の保全が重要課題です。水資源や自然環境への懸念が払拭されない中、強引な工事着手はあつてはなりません。

トンネルは大井川水系の地下を通過するため、対策をしなければトンネル内に湧水が溢れ出し、トンネルの傾斜に沿って水が流出、その影響により大井川の流量は毎秒2トン減少すると予測されています。

掛川市は飲み水の約9割が大井川から。農業用水、産業用水もその多くを大井川に依存しています。新東名高速を建設の際、粟ヶ岳の水源が枯渇、倉真地区の松葉の滝が枯れました。毎秒2トンの水量減少は、かけがえない私たちの「命の水」が危機にさらされているということです。

自然環境への影響も甚大です。南アルプスは、植物が約2,000種、動物が約3,000種確認されるなど生物多様性が非常に高い地域です。絶滅のおそれは植物で483種、動物で292種に上ります。国の特別天然記念物で絶滅の恐れがある「ライチョウ」、準絶滅危惧種の「ヤマトイワナ」は南アルプス固有の希少生物です。

工事により生態系が脅かされると、二度と元に戻せません。自然環境に甚大な悪影響を及ぼす可能性があるのに、東京1名古屋間を1時間で結ぶために南アルプスに穴を掘り進め、山を痛めつける必要があるのでしょうか。豊かな自然環境とその自然を守り共生してきた地域の歴史・文化が認められ、ユネスコエコパークに登録されたのに、この事業は暴挙としか思えませんし、自然への冒涇、人間のエゴだと私には映ります。皆さんはどうお考えですか？



Quelque Chose(ケルク ショーズ) × 掛川市森林組合  
名刺入れ ¥5,500 (税抜き価格)  
ケヤキ / ヒノキとウォールナットのツートン

「これいい!」 購買担当「リエさん」の  
オススメGOODS!!



ご好評いただいています、掛川市のオリジナル家具工房ケルクショーズさんとのコラボ商品、ケヤキの名刺入れが再入荷いたしました。今回ヒノキとウォールナットのツートンも新登場!! とってもおしゃれで、ひとつひとつ手作りで木のぬくもりが感じられます。開閉はマグネット式で、閉めるとカチッと音がしてクセになります。木目が全部ちがうので、手にとってお気に入りを選んでください!! 専用箱もご用意しておりますので、就職祝などプレゼントにいかがですか?

## 組合員の皆さまへ

相続等で所有山林に異動が生じた際は  
森林組合へご一報ください。



KAKEGAWA  
Forest Owner's Cooperative

発行元

### 掛川市森林組合

〒436-0335 静岡県掛川市大和田320-1

TEL.0537-25-2111 FAX.0537-25-2113

<http://kakemori.seesaa.net/>



循環施設を生み出すためには、イノベーションが必要です。古き技術の再構築も必要です。循環施設の構築というゴールに向かう森林組合の新たなチャレンジに期待ください。

循環施設を生み出すためには、イノベーションが必要です。古き技術の再構築も必要です。循環施設の構築というゴールに向かう森林組合の新たなチャレンジに期待ください。

現在、企業が将来にわたって経済活動を継続していくためには、環境への配慮、地域社会との共生などの考え方が求められるようになってきています。国連の示すSDGsの考え方や、森林認証FSCの理念がこれらを具体的に示しているのではないのでしょうか。特に注目すべき話題は気候変動に関する問題です。温室効果ガスを吸収する森林は、今、改めて注目される存在になっています。

「皆伐施業」とその先にあるもの  
経営計画課長 今橋 真人



週末の昼前。かけがわの森からのインタビュー第一号として掛川市大池にある静岡トヨペット掛川店の竹内雅乃店長を訪問しました。2018年完成の、掛川市産のFSC認証材をふんだんに活用したショールームは木に当たる日差しが柔らかく、子どもたちの賑やかな声が響いていました。

## かけがわの森からのインタビュー① 有機的ショールームは、空間を共有する皆がリラックスできます。

トヨペット掛川店と掛川市森林組合の関係は以前から？

掛川市森林組合さんとトヨペットのお付き合いは、もう30年以上前からだと思えます。林業の現場に通う6人乗りのトヨタのダブルキャブや新型の「ライズ」をお使いいただいています。



店舗に地域の木材を活用するきっかけは？

トヨペットとして、ショールームをあらためて「人が集う場所」として捉えました。ショールームのあり方を見直し、もっと質的な柔らかさを活かし、地域の資源を活かすことで、地域との絆も深まるという考え方に至りました。掛川店は森林組合さんとのご縁の中で、自然素材である近くの山の

木を活用することが決まりました。

従来のディーラーのショールームイメージと大きく異なっていますね。

一般的にはディーラーは無機質で直線的。車を見せて売るための場所でした。そのスタイルは社内の規定か何かで決まっているのだとずっと思っていたほどです。今回、曲線的なデザインの中に木という有機的な素材を使うことで、当店はとても優しい印象になったと思います。

お客様の反応はいかがですか。

以前に比べ、特にお子様連れのお客様がリラックスしているように感じます。無機質な空間だと、騒いだらいけない雰囲気になるのか親御さんにも気を使っていただいてしまつて。それが、今は気軽に足を運んでいただけるようになり、週末はいつも子どもたちの声があふれる和気あいあいとした雰

囲気です。地域材を活用していることが好評なので、チェアやテーブルにも採用したかったくらいです。他店舗からの視察も時々あるほどです。

社員からはどんな反応がありましたか？

完成した時、私自身がとにかく「いいな」と感じました。それは社員も同じだと思います。お客様と同様に働く人も心の穏やかさを感じられる。この店舗は空間を共有する人がリラックスできますね。

人々の暮らしと木や森林、その環境について、これからの関係をどう考えますか。

多くの人々は、健やかな自然素材を生活に取り入れようとしています。しかし、森林組合と一般の方が出会う機会は希少です。そこで、私たちのような企業と繋がり、形

にできたものをお客様にお見せることが身近に感じていただくいい機会になるでしょう。そんな企業やショールームが地域の中にあり、地域と共に歩むことで、豊かな可能性をもつ、まさに「ワンダーランド店舗」として皆様のお役に立てるかもしれないと思っています。



静岡トヨペット株式会社  
掛川店 店長  
たけうち まさこの  
竹内 雅乃さん

## 広報誌のバトン

尾崎です。今回、広報紙「かけがわの森から」が新紙面にリニューアルしました。平成18年の第1号発刊から第50号まで、編集を担当させていただきましたが、今回から新たに編成された広報チームによる編集となりました。今後はチームメンバーの様々な視点により、彩りある紙面ができるのでは、と期待が膨らみます。大きく変化する時代の中で、現在の森をどう活かすか？未来の森をどう創るのか？森と木と暮らしをつなぐ森林組合として、そんな情報発信・情報交流が続けられればいいなと思っています。目指すは「毎月綴っておきたいような広報紙！」広報チーム、がんばります。



## 編集後記

### バトンは受け取りました

桜が咲き新生活が始まっている方も多くはないでしょうか。当組合の広報紙も第51号より、新広報チーム4名で新しい一歩をふみだすことができました。

●今後の活動に向けて一言  
今橋：エッジの効いたことが書けるといいなと思います。無理かな。伊達：皆さんに現場の様子を伝えられるような広報紙にしていきたいです。

宮内：広報紙のバージョンアップということで、皆様により楽しんでもらえるよう情報発信に努めていきます！

落合：最終年長、若手とは違う視点で、興味をもってもらえる広報紙を目指します。よろしくお願いたします。

また、今回の制作にご協力いただきました皆様に心から感謝しています。次回はプレゼント企画も予定しています。どうぞご期待ください。

